

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「スタバの低価格志向対策」
- 2) 「大阪マルシェ ほんまもん」
- 3) 「ニート支援」

1) 「スタバの低価格志向対策」

スターバックスは今年から、全米でインスタントコーヒー市場へ参入している。商品名は「Via」で米国での販売価格は3杯分で2.95\$ (約265円)、12杯で9.95\$ (890円)と店頭での1杯分で3杯飲める計算だ。インスタントコーヒーの市場規模は世界全体で170億ドル (約1兆5400億円) とされている。

スターバックスは朝食やコーヒー飲料の値引き計画やインスタントコーヒー参入は、ブランドを低価格帯で体験する機会を提供していると説明。低価格志向が強まりますます弱くなる経済環境の中で、如何にブランドイメージを損ねずに経済状況に対応するかが重要な時代。こういった方法でやみくもに値段を下げるのではなく、勝ち抜くための上手い対応ができる企業の一つである。実験販売は行われていたが、全米での販売は 2009 年 9 月 29 日から。各家庭にチラシ代わりに現物をポストに投函するなどプロモーションにも力が入っている。

不況の影響でどこもかしこも「ディスカウント」業態を展開しつつあるが、「ブランドイメージ」というものは築き上げるまで恐ろしいほど時間がかかっても崩壊するのはあつという間。やみくもに値段を下げないというスタバらしい選択でどこまで浸透するか注目したい。

2) 「大阪マルシェ ほんまもん」

西梅田の「ブリーゼブリーゼ」1階メディアコートで10月2日、「大阪マルシェ ほんまもん」のオープニングマルシェが開催された。

同マルシェは、農林水産省のマルシェ・ジャポン・プロジェクトの採択を受けて実施するもので、大阪エリアで事業を展開するマルシェ・ド・大阪テロワール実行委員会が運営。大阪を中心とした地元の農産物を「生産者の思いを都会の生活者に直に届けたい」と、都心部で直売する仮設市場を営業する。

オープニングマルシェでは、同ビル33階のフレンチビストロ「ル・コントワール・ド・ブノワ」をプロデュースするフランス料理界の巨匠、アラン・デュカスさん監修の下、同ビストロに食材を提供する地元の生産者やマルシェに参加する地元生産者グループが参加し、新鮮な食材を一般販売した。

2010年3月31日まで、毎週水曜・土曜・日曜・祝日に延べ75日開催。水曜は夕市、土曜は朝市を中之島公園女神像前広場で展開し、日曜・祝日はイベントマルシェとして不定期開催する。参加店舗は30～50店。22万5000人の来場、3億3750万円の売り上げを見込む。

活動の主旨である「都会の生活者に届けたい」を実行するためには、やはり人が集まり足を止める空間で行わなければならないと思う。こうした商業施設ばかり、例えばこの秋に公開される「イートリップ」という食のドキュメンタリー映画とタイアップし、映画を見終わった後に買い物する機会があればもっと深く感じてもらえるのではないか。（※イートリップは独自でマルシェを開催している）企画と費用をムダにしないためにも、認知度アップで目標達成できることを祈る。

3) 「ニート支援」

一般社団法人 ひきこもり支援相談士認定協議会が認定する「ひきこもり支援相談士」の資格が、2009年7月27日から厚生労働省認可団体である財団法人 日本経営教育センターの推奨資格として認定されたと発表した。

「ひきこもり支援相談士」は、「ひきこもり」支援に特化した全国初の認定制度。本人や家族だけでは解決が難しい「ひきこもり」に対し、専門知識をもって本人や家族をサポートする人材を育成することを目的に構築したという。

2009年7月1日に成立した「子ども・若者育成支援推進法」により、従来まで民間団体、児童相談所、精神保健福祉センターなどが各自バラバラで手がけてきた支援体制をネットワーク化すると定められたことから、今後、これまで以上に専門的な知識をもった支援体制による問題対応が重要となり、「ひきこもり支援相談士」の社会的ニーズ・期待はさらに大きくなっていくものと見られている。

また、NPO法人の「育て上げ」ネットが同法の成立を受けて7月から始めた取り組みの中にスーツの無料貸し出しがある。一般の人によびかけて不要となったスーツを集め、経済的な事情などでスーツを購入することのできない若者に就職試験などの際に無料で貸し出すもの。※予定の1000着に達し、現在はスーツ寄付の受付は終了。

紳士服大手によると低価格のもので揃えても、リクルートスーツは男女共に2万円前後、男性はそれに加えてワイシャツ、ネクタイ、ベルト、靴、カバンなども必要でありそれらが合計で約2万円。女性もブラウス、カバン、パンプスで約1万6000円かかるという。就職試験を受けたくても、それまでひきこもり状態だったために本人にお金がなかったり、親のリストラなどで困窮したりしてスーツや小物を買うだけのお金を捻出できない。採用面接試験においてスーツ着用は社会人として常識となっているので、そうした資金をもたない若者に対する支援を積極的に行おうというものである。

個々に様々な理由はあるが、1度ニートになるとなかなか脱却できないもの。簡単なことで就業・社会復帰に繋がる若者もいるので、職安などでこういった活動情報が受け取れると良いのかもしれない。